

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3670101884		
法人名	医療法人 清和会		
事業所名	グループホームかがやき2号館		
所在地	徳島市八万町橋本80番地		
自己評価作成日	平成23年9月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=36">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=36</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成23年11月30日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

事業所は、傾聴や共感、笑顔を基本事項として心がけている。利用者職員は、できる範囲の役割をともに果たしつつ、生きがいをもって個別性のある生活を送っている。また、地域行事の遠足や誕生会、運動会等の行事に参加して地域住民として交流を図り、楽しみのある毎日を過ごしてもらっている。居室はすべて個室となっており、プライバシーに十分配慮した環境整備を行っている。母体法人の経営する医療機関が敷地内にあるため、医療との連携を充実させることで、利用者や家族の安心に繋がっている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所は、住宅や幼稚園、小学校のある地域に位置している。地域との継続的な交流を通じ、利用者の生活を支援している。オープンスクールや地元のお祭り、文化祭等へ積極的に参加し交流を図っている。事業所は、ユニットごとに共有空間を設けており、利用者の笑顔あふれる行事の写真や季節感のある作品をたくさん掲示しているため、家庭的で暖かい雰囲気となっている。また、事業所は、同一法人の運営する医療機関と併設しているため、医療連携を密に図っており、利用者や家族の安心に繋がっている。毎月、法人や事業所内で研修会を開催しており、サービスの質の向上に積極的に取り組んでいる。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を、玄関や各ユニットの事務室、リビングに掲げて毎日確認し、日ごろの実践に取り組んでいる。	事業所は、理念を玄関や食堂、事務室に掲示している。毎日、全職員で理念を確認し共有化を図っている。新規職員の採用時にも、理念を優先して話すなど、管理者と職員が一体となって日ごろのケアに繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学校や幼稚園の行事、地元の文化祭への参加、婦人会などのボランティアの受け入れ等を行い、地域との交流を図っている。また、量販店で買い物を楽しんだり、地元の祭りでは子供屋台が敷地周辺まで来てくれたりしている。	近隣に小学校や幼稚園があり、行事等の際に交流を図っている。また、地域の文化祭やお祭りにも参加し、御輿が玄関前まで来てくれるなど、地域との交流に積極的に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成への貢献として、実習生の受け入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を開催している。利用者や家族、民生委員、地域包括支援センター職員、責任者、管理者、職員が参加している。活動状況や外部評価結果、災害対策等について意見交換し、改善に向け取り組んでいる。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。利用者や家族、民生委員、地域包括支援センター職員等の参加がある。会議では、災害対策に関する意見等も出ており、日ごろの運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者に、定期的な書類の提出や介護認定申請代行、利用者の諸制度の活用についての相談をしている。様々な情報の問い合わせを受けるなど、相互に連携している。	事業所は、定期的に市担当者へ報告書を提出している。また、各種制度や手続き等について相談を行っている。また、市担当者から研修会の案内や新聞記事等に関する情報提供を得ており、協力関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指針基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束について理解しており、原則として身体拘束は行っていない。玄関の鍵は防犯のため施錠しているが、利用者の希望に応じて自由に出入りできるよう配慮している。	年2回、法人と事業所で身体拘束に関する研修会を実施しており、全職員で正しい理解に繋げている。家族の理解を得たうえで、ユニットごとに施錠を行っているが、利用者の希望に応じて自由に外出できるよう配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティングなどを行い、不適切なケアや言葉による虐待が無いよう確認している。また、見過ごされることが無いよう注意を払い、虐待の防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	同一法人内でのバックアップ体制は整っているが、事業所独自の体制は十分ではない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間をとって丁寧に説明し、納得していただいてから同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の茶話会等で意見を出してもらって、運営に反映している。家族には、家族会で問いかけたり、面会時に何でも言っていたりするような雰囲気づくりに留意している。	毎月の茶話会や家族会等で意見交換を行い、出された要望等を運営面に反映している。家族の面会時には、積極的な声かけや話しやすい雰囲気づくりに努め、意見や要望の把握に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日ごろから、代表者や管理者は、職員とコミュニケーションを図るよう心がけている。話しあう機会を設けて意見や要望を聞いている。また、法人内では、2週間に1回の調整会議や、月1回のヒヤリハット会議を開催している。	管理者は、各種会議の開催時等に職員の意見を聞くよう努め、出された意見等を運営面や日ごろのケアに反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現状を把握している。また、本人の意向を重視し、資格習得に向け支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会を確保し、多くの職員が受講できるようにしている。研修報告書は全職員が閲覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会や研修を通して他事業所との交流を図るなどして、ネットワークづくりに取り組んでいる。法人内では、月1回以上、合同勉強会を開催している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人や家族と面会を行い、心身状態や本人の思いと向きあい、不安を理解できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの経緯や苦労等をしっかりと聞き、事業所としてどのような対応をしていくかをよく話しあって、信頼関係を築くことができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容に応じてショートステイや入居など必要なサービスの種類を説明している。早急な対応が必要な方にはなるべく柔軟な対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者から学ぶことは多く、お互いに支えあって楽しく生活を送ることができるよう心がけている。職員は、つねに笑顔で利用者と接するよう心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日ごろの暮らしや出来事を伝えて情報を共有し、ともに本人を支えていく関係づくりが心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	会話のなかに取り入れたり、面会に来ていただけるよう支援している。	利用者が入居前に利用していた馴染みの美容院等を引き続き利用できるよう支援している。また、馴染み友人や知人との面会や電話をかける支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	なるべく関わりを持つことができるように配慮し、孤立することがないよう職員が橋渡し役となっている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した後も、継続的に関わることを説明している。また、家族からの相談にものっている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望を最優先し、支援している。また、家族からの情報も得るようにしている。残存機能が活かせるような声かけを行い、安心して生活を送ることができる方法を検討している。	職員は、利用者一人ひとりの希望をよく聞き、思いや意向を汲みとるよう努めている。利用者一人ひとりの力量に応じて生活全般の支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人や家族から聞きとりを行い、入居後も折にふれ家族から話を聞き、職員が把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムやできること、できないことを把握し、特に心身状態の把握に配慮して対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人には日ごとの生活のなかで、家族には面会時などに意見を聞き、アセスメントや意見交換を行い、カンファレンス開いて介護計画を作成している。原則3か月以内の見直しと、状態変化が起きた場合は、そのつどカンファレンスを行い変更している。	3か月に1回、介護計画書を見直しており、利用者の状態に変化等があった際には、そのつどの見直しを行っている。介護計画書の作成時には、家族や職員から意見やアイデア等を聞いて反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、利用者全員について個別の介護記録を記載し、情報を共有しあって実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他サービス事業所からの転居等を柔軟に支援している。医療連携体制を活かして、適切な医療の受診や入院の回避、早期退院を支援しており、なるべく事業所で医療を受けつつ生活することができるような体制を構築している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や地域婦人会のボランティア、消防署、教育機関の協力を得ている。また、地域の文化祭やお祭り等にも参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医療機関も含め、本人や家族の希望する医療機関の受診を支援している。基本的には職員同行の受診となっているが、状況により家族に通院介助をお願いする場合もあり、利用契約時にその旨を説明し同意を得ている。	利用者や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。家族と相談したうえで、職員が同行したり、家族による受診を支援したりしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関と連携を密にし、つねに利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。協力医療機関の看護師が2週間に1回程度来てくれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医療機関に介護サマリーなどの支援方法を提供している。また、家族とも回復状況等の情報交換を行って、速やかな退院支援に結びつけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りを率先して行っていないが、終末期の方については、かかりつけ医や事業所の協力医療機関の医師と相談のうえ、入居していただいている。終末期の利用者については、急変時の対応について主治医から指示を仰いでいる。	入居時、利用者や家族に説明を行い、医療機関と連携を密に図っている。また、職員は、重度化や終末期に関する研修を受講し、対応マニュアルについても学習している。看取りの事例はないが、利用者のかかりつけ医や主治医と相談したうえで入居してもらっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成し、周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て避難訓練や消火器の使い方の訓練を行ったり、マニュアルを作成したりし、それに基づいた訓練を行っている。地域には運営推進会議で協力を呼びかけている。	年2回、消防署の協力を得て夜間を想定した避難誘導訓練や消火訓練を実施している。また、協力医療機関と連携し合同の災害対応訓練等も実施している。各ユニットに消防署直通の非常通報電話を設置している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティングの際、職員の意識向上を図り、利用者の誇りやプライバシーを損なうことのないよう対応を徹底している。また、全職員が個人情報保護法の理解に努めている。	職員は、利用者の誇りを傷つけないような言葉かけや人格を尊重したケアに努めている。また、個人情報保護法に関する研修会等を開催し、日ごろのケアに繋げている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員側で決めたことを押しつけるようなことはせず、利用者一人ひとりにあわせた声かけをし、複数の選択肢を提案して自分で決める場面をつくらせている。また、意思表示の困難な方には表情から読みとるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、一人ひとりのその日の体調や気持ちを尊重し、柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分の好みの服装をしてお化粧をするなど、日ごろからおしゃれ等を楽しんでもらえるよう取り組んでいる。また、馴染みの美容院等がある方は行けるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの力に合わせ、準備や片づけをともにし、皆で同じテーブルを囲んで楽しく食事できるよう、雰囲気づくりを大切にしている。	利用者一人ひとりの力量に応じ、食事の準備や後片づけなどの役割を担ってもらっている。また、利用者と職員は、食材に関する会話を楽しみながらともにおやつをつくっている。外食の日を設けたり、お餅つきや流しそうめんなどの季節感あふれる食事も提供したりしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の確認と間食量を把握している。水分補給も時間ごとに行っている。食事量が低下している方には、好みの物を食べてもらうなどの配慮をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの必要性を話し、食後の歯磨きの声かけを行い、一人ひとりの力に応じて見守りや介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、必要な方にはトイレ誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握したうえでトイレ誘導を行っている。おむつの使用者はいない。また、排泄の自立に向けた取り組みを介護計画書に反映している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や体操など毎日の運動や食材や利用者一人ひとりにあった飲み物などを工夫し、自然排泄できるよう取り組んでいる。排泄の困難な方は、医師に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は、毎日可能となっている。入浴を拒む方もいるが、職員が同行し安心感をもってもらえるよう工夫している。	毎日入浴できるよう準備している。リフト浴等の設備を設け安全に入浴できるよう工夫している。入浴を拒む利用者には時間をかけて声かけを行うなどしており、利用者一人ひとりに応じた支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を支援し、生活リズムを整えるよう取り組んでいる。状況に応じて休息をとっていただいたり、寝つけないときには温かい飲み物を飲んでゆっくり話をするなどの配慮をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は、そのつど内容を把握して副作用や内服後の状態を観察し記録している。服薬時には本人に手渡し、正しく服薬できているかを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりに役割を担っていただき、できることはしていただいて、生きがいのある生活を送ってもらえるよう努めている。また、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望や気分に応じて散歩に出かけたり日光用を楽しんだりしている。また、茶話会で利用者の行きたい場所の希望を聞き、買い物や外食、遠足に行っている。場合によっては家族にも協力を依頼している。	利用者一人ひとりの希望に応じ、散歩や買い物等への外出を支援している。利用者に希望を聞いて、外出先の場所等を決めている。また、家族の協力を得たうえで外出を支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な方には、本人や家族と相談したうえで、財布を持っていただいている。また、所持していない方も職員と買い物に出かけ、欲しい物を買っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人などに電話しやすい雰囲気をつくり、プライバシーに配慮したうえで個別に支援している。年賀状や暑中見舞いを出すなど、手紙のやりとりも利用者の希望に応じて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	調理の匂いや食器を洗っている音などで生活感を感じていただいたり、季節に応じた装飾品を利用者の方達と作り、居心地よく生活できるよう工夫している。	リビングや食堂の共有空間には、毎月の行事予定や遠足等の写真、利用者の作品等を展示しており、季節感のある空間となっている。また、清掃が行き届いており、利用者が居心地よく過ごせるよう支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気のあった利用者同士で話をしたり、かたを楽しんだりしている、利用者同士でくつろいでいただけるスペースを設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具を置いたり、写真を飾ったりして、それぞれが居心地よく生活できるよう工夫している。	居室に、家族の写真や手芸品、絵画等の趣味の作品、使い慣れた家具等を持ち込んでもらっている。また、家庭的な雰囲気があり、利用者一人ひとりにとって過ごしやすい馴染みの空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態を把握し、どのようにすれば良いのかを話しあって、できないことは介助し、できることからしていただいて自立した生活が送れるよう工夫している。		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	ユニット 3 実践状況	実践状況
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を、玄関や各ユニットの事務室、リビングに掲げて毎日確認し、日ごろの実践に取り組んでいる。	理念を、玄関や各ユニットの事務室、リビングに掲げて毎日確認し、日ごろの実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学校や幼稚園の行事、地元の文化祭への参加、婦人会などのボランティアの受け入れ等を行い、地域との交流を図っている。また、量販店で買い物を楽しんだり、地元の祭りでは子供屋台が敷地周辺まで来てくれたりしている。	小学校や幼稚園の行事、地元の文化祭への参加、婦人会などのボランティアの受け入れ等を行い、地域との交流を図っている。また、量販店で買い物を楽しんだり、地元の祭りでは子供屋台が敷地周辺まで来てくれたりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の貢献として、実習生の受け入れを行っている。	人材育成の貢献として、実習生の受け入れを行っている。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を開催している。利用者や家族、民生委員、地域包括支援センター職員、責任者、管理者、職員が参加している。活動状況や外部評価結果、災害対策等について意見交換し、改善に向け取り組んでいる。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。利用者や家族、民生委員、地域包括支援センター職員、責任者、管理者、職員が参加している。活動状況や外部評価結果、災害対策等について意見交換し、改善に向け取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者に、定期的な書類の提出や介護認定申請代行、利用者の諸制度の活用についての相談をしている。様々な情報の問い合わせを受けるなど、相互に連携している。	市町村担当者に、定期的な書類の提出や介護認定申請代行、利用者の諸制度の活用についての相談をしている。様々な情報の問い合わせを受けるなど、相互に連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束について理解しており、原則として身体拘束は行っていない。玄関の鍵は防犯のため施錠しているが、利用者の希望に応じて自由に出入りできるよう配慮している。	職員は身体拘束について理解しており、原則として身体拘束は行っていない。玄関の鍵は防犯のため施錠しているが、利用者の希望に応じて自由に出入りできるよう配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティングなどを行い、不適切なケアや言葉による虐待が無いよう確認している。また、見過ごされることが無いよう注意を払い、虐待の防止に努めている。	勉強会やミーティングなどを行い、不適切なケアや言葉による虐待が無いよう確認している。また、見過ごされることが無いよう注意を払い、虐待の防止に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	ユニット 3 実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	同一法人内でのバックアップ体制は整っているが、事業所独自の体制は十分ではない。	同一法人内でのバックアップ体制は整っているが、事業所独自の体制は十分ではない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間をとっていねいに説明し、納得していただいてから同意を得るようにしている。	契約時には時間をとっていねいに説明し、納得していただいてから同意を得るようにしている。	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の茶話会等で意見を出してもらって、運営に反映している。家族には、家族会で問いかけたり、面会時に何でも言っていたりするような雰囲気づくりに留意している。	毎月の茶話会等で意見を出してもらって、運営に反映している。家族には、家族会で問いかけたり、面会時に何でも言っていたりするような雰囲気づくりに留意している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日ごろから、代表者や管理者は、職員とコミュニケーションを図るよう心がけている。話しあう機会を設けて意見や要望を聞いている。また、法人内では、2週間に2回の調整会議や、月1回のヒヤリハット会議を開催している。	日ごろから、代表者や管理者は、職員とコミュニケーションを図るよう心がけている。話しあう機会を設けて意見や要望を聞いている。また、法人内では、2週間に2回の調整会議や、月1回のヒヤリハット会議を開催している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現状を把握している。また、本人の意向を重視し、資格習得に向け支援している。	現状を把握している。また、本人の意向を重視し、資格習得に向け支援している。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会を確保し、多くの職員が受講できるようにしている。研修報告書は全職員が閲覧できるようにしている。	研修を受ける機会を確保し、多くの職員が受講できるようにしている。研修報告書は全職員が閲覧できるようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会や研修を通して他事業所との交流を図るなどして、ネットワークづくりに取り組んでいる。法人内では、月1回以上、合同勉強会を開催している。	勉強会や研修を通して他事業所との交流を図るなどして、ネットワークづくりに取り組んでいる。法人内では、月1回以上、合同勉強会を開催している。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	ユニット 3 実践状況	実践状況
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人や家族と面会を行い、心身状態や本人の思いと向きあい、不安を理解できるよう努めている。	事前に本人や家族と面会を行い、心身状態や本人の思いと向きあい、不安を理解できるよう努めている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの経緯や苦労等をしっかりと聞き、事業所としてどのような対応をしていくかをよく話しあって、信頼関係を築くことができるよう努めている。	これまでの経緯や苦労等をしっかりと聞き、事業所としてどのような対応をしていくかをよく話しあって、信頼関係を築くことができるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容に応じてショートステイや入居など必要なサービスの種類を説明している。早急な対応が必要な方にはなるべく柔軟な対応を行っている。	相談内容に応じてショートステイや入居など必要なサービスの種類を説明している。早急な対応が必要な方にはなるべく柔軟な対応を行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者から学ぶことは多く、お互いに支えあって楽しく生活を送ることができる心がけている。職員は、つねに笑顔で利用者と接するよう心がけている。	利用者から学ぶことは多く、お互いに支えあって楽しく生活を送ることができる心がけている。職員は、つねに笑顔で利用者と接するよう心がけている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日ごろの暮らしや出来事を伝えて情報を共有し、ともに本人を支えていく関係づくりを心がけている。	日ごろの暮らしや出来事を伝えて情報を共有し、ともに本人を支えていく関係づくりを心がけている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	会話のなかに取り入れたり、面会に来ていただけるよう支援している。	会話のなかに取り入れたり、面会に来ていただけるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	なるべく関わりを持つことができるように配慮し、孤立することがないよう職員が橋渡し役となっている。	なるべく関わりを持つことができるように配慮し、孤立することがないよう職員が橋渡し役となっている。	



自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	ユニット 3 実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した後も、継続的に関わることを説明している。また、家族からの相談にも関わっている。	サービスが終了した後も、継続的に関わることを説明している。また、家族からの相談にも関わっている。	
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望を最優先し、支援している。また、家族からの情報も得るようにしている。残存機能が活かせるような声かけを行い、安心して生活を送ることができる方法を検討している。	一人ひとりの希望を最優先し、支援している。また、家族からの情報も得るようにしている。残存機能が活かせるような声かけを行い、安心して生活を送ることができる方法を検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人や家族から聞きとりを行い、入居後も折にふれ家族から話を聞き、職員が把握できるようにしている。	入居時に本人や家族から聞きとりを行い、入居後も折にふれ家族から話を聞き、職員が把握できるようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムやできること、できないことを把握し、特に心身状態の把握に配慮して対応している。	一人ひとりの生活リズムやできること、できないことを把握し、特に心身状態の把握に配慮して対応している。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人には日ごろの生活のなかで、家族には面会時などに意見を聞き、アセスメントや意見交換を行い、カンファレンス開いて介護計画を作成している。原則3か月以内の見直しと、状態変化が起きた場合は、そのつどカンファレンスを行い変更している。	本人には日ごろの生活のなかで、家族には面会時などに意見を聞き、アセスメントや意見交換を行い、カンファレンス開いて介護計画を作成している。原則3か月以内の見直しと、状態変化が起きた場合は、そのつどカンファレンスを行い変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、利用者全員について個別の介護記録を記載し、情報を共有しあって実践に活かしている。	毎日、利用者全員について個別の介護記録を記載し、情報を共有しあって実践に活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他サービス事業所からの転居等を柔軟に支援している。医療連携体制を活かして、適切な医療の受診や入院の回避、早期退院を支援しており、なるべく事業所で医療を受けつつ生活することができるような体制を構築している。	他サービス事業所からの転居等を柔軟に支援している。医療連携体制を活かして、適切な医療の受診や入院の回避、早期退院を支援しており、なるべく事業所で医療を受けつつ生活することができるような体制を構築している。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	ユニット 3 実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や地域婦人会のボランティア、消防署、教育機関の協力を得ている。また、地域の文化祭やお祭り等にも参加している。	民生委員や地域婦人会のボランティア、消防署、教育機関の協力を得ている。また、地域の文化祭やお祭り等にも参加している。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医療機関も含め、本人や家族の希望する医療機関の受診を支援している。基本的には職員同行の受診となっているが、状況により家族に通院介助をお願いする場合もあり、利用契約時にその旨を説明し同意を得ている。	事業所の協力医療機関も含め、本人や家族の希望する医療機関の受診を支援している。基本的には職員同行の受診となっているが、状況により家族に通院介助をお願いする場合もあり、利用契約時にその旨を説明し同意を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関と連携を密にし、つねに利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。協力医療機関の看護師が2週間に1回程度来てくれている。	協力医療機関と連携を密にし、つねに利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。協力医療機関の看護師が2週間に1回程度来てくれている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医療機関に介護サマリーなどの支援方法を提供している。また、家族とも回復状況等の情報交換を行って、速やかな退院支援に結びつけている。	入院時には、医療機関に介護サマリーなどの支援方法を提供している。また、家族とも回復状況等の情報交換を行って、速やかな退院支援に結びつけている。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りを率先して行ってはいないが、終末期の方については、かかりつけ医や事業所の協力医療機関の医師と相談のうえ、入居していただいている。終末期の利用者については、急変時の対応について主治医から指示を仰いでいる。	看取りを率先して行ってはいないが、終末期の方については、かかりつけ医や事業所の協力医療機関の医師と相談のうえ、入居していただいている。終末期の利用者については、急変時の対応について主治医から指示を仰いでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成し、周知徹底を図っている。	緊急対応マニュアルを作成し、周知徹底を図っている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て避難訓練や消火器の使い方の訓練を行ったり、マニュアルを作成したりし、それに基づいた訓練を行っている。地域には運営推進会議で協力を呼びかけている。	消防署の協力を得て避難訓練や消火器の使い方の訓練を行ったり、マニュアルを作成したりし、それに基づいた訓練を行っている。地域には運営推進会議で協力を呼びかけている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	ユニット 3 実践状況	実践状況
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティングの際、職員の意識向上を図り、利用者の誇りやプライバシーを損なうことのないよう対応を徹底している。また、全職員が個人情報保護法の理解に努めている。	ミーティングの際、職員の意識向上を図り、利用者の誇りやプライバシーを損なうことのないよう対応を徹底している。また、全職員が個人情報保護法の理解に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員側で決めたことを押しつけるようなことはせず、利用者一人ひとりにあわせた声かけをし、複数の選択肢を提案して自分で決める場面をつくっている。また、意思表示の困難な方には表情から読みとるようにしている。	職員側で決めたことを押しつけるようなことはせず、利用者一人ひとりにあわせた声かけをし、複数の選択肢を提案して自分で決める場面をつくっている。また、意思表示の困難な方には表情から読みとるようにしている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、一人ひとりのその日の体調や気持ちを尊重し、柔軟に対応している。	基本的な1日の流れはあるが、一人ひとりのその日の体調や気持ちを尊重し、柔軟に対応している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分好みの服装をしたり外出時は頭髪料をつけたりされる方もおり、日ごろからおしゃれを楽しんでもらっている。馴染みの理容店等がある方は行けるよう支援している。女性の方はお化粧を楽しまれている。	自分の好みの服装をしている。買い物時に化粧品を購入したり、クリームを塗るなど、日ごろからおしゃれを楽しんでもらえるよう取り組んでいる。また、馴染みの美容院などがある方は行けるよう支援している。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの力に合わせ、準備や片づけをともにし、皆で同じテーブルを囲んで楽しく食事できるよう、雰囲気づくりを大切にしている。	一人ひとりの力に合わせ、準備や片づけをともにし、皆で同じテーブルを囲んで楽しく食事できるよう、雰囲気づくりを大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の確認と間食量を把握している。水分補給も時間ごとに行っている。食事量が低下している方には、好みの物を食べてもらうなどの配慮をしている。	食事や間食量を確認し把握している。水分補給も時間ごとに行っている。食事量が低下している方には、声かけを工夫したり、好みの物を食べてもらったりしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの必要性を話し、食後の歯磨きの声かけを行い、一人ひとりの力に応じて見守りや介助を行っている。	口腔ケアの必要性を話し、食後の歯磨きの声かけを行い、一人ひとりの力に応じて見守りや介助を行っている。また、定期的な歯科受診の通院介助を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	ユニット 3 実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、必要な方にはトイレ誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、必要な方にはトイレ誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や体操など毎日の運動や食材や利用者一人ひとりにあった飲み物などを工夫し、自然排泄できるよう取り組んでいる。排泄の困難な方は、医師に相談している。	散歩や体操など毎日の運動や食材や利用者一人ひとりにあった飲み物などを工夫し、自然排泄できるよう取り組んでいる。排泄の困難な方は、医師に相談している。	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は、毎日可能となっている。入浴を拒む方もいるが、職員が同行し安心感をもってもらえるよう工夫している。	入浴は毎日可能となっている。入浴を拒む方もあるが、声かけのタイミングを替えたり、好みの入浴剤を使用したりして勧めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を支援し、生活リズムを整えるよう取り組んでいる。また寝付けない時には、温かい飲み物を飲みながらゆっくり話をするなどの配慮をしている。	日中の活動を支援し、生活リズムを整えるよう取り組んでいる。また状況に応じて休息できるようにしている。寝付けない時には、温かい飲み物を飲みながらゆっくり話をするなどの配慮をしている。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は、そのつど内容を把握して副作用や内服後の状態を観察し記録している。服薬時には本人に手渡し、正しく服薬できているかを確認している。	服薬は、そのつど内容を把握して副作用や内服後の状態を観察し記録している。服薬時には本人に手渡し、正しく服薬できているかを確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりに役割を担っていただき、できることはしていただいて、生きがいのある生活を送ってもらえるよう努めている。また、感謝の言葉を伝えるようにしている。	利用者一人ひとりに役割を担っていただき、できることはしていただいて、生きがいのある生活を送ってもらえるよう努めている。また、感謝の言葉を伝えるようにしている。	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望や気分に応じて散歩に出かけたり日光用を楽しんだりしている。また、茶話会で利用者の行きたい場所の希望を聞き、買い物や外食、遠足に行っている。場合によっては家族にも協力を依頼している。	本人の希望や気分に応じて散歩に出かけたり日光用を楽しんだりしている。また、茶話会で利用者の行きたい場所の希望を聞き、買い物や外食、遠足に行っている。場合によっては家族にも協力を依頼している。	



自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	ユニット 3 実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な方には、本人や家族と相談したうえで、財布を持っていただいている。	自己管理ができる人はいないので、本人や家族と相談したうえで、現在は所持していないが、職員と買い物に出かけて欲しい物を買っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人などに電話しやすい雰囲気をつくり、プライバシーに配慮したうえで個別に支援している。年賀状や暑中見舞いを出すなど、手紙のやりとりも利用者の希望に応じて支援している。	家族や友人などに電話しやすい雰囲気をつくり、プライバシーに配慮したうえで個別に支援している。年賀状や暑中見舞いを出すなど、手紙のやりとりも利用者の希望に応じて支援している。	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	調理の匂いや食器を洗っている音などで生活感を感じていただいたり、季節に応じた装飾品を利用者の方達と作り、居心地よく生活できるよう工夫している。	調理の匂いや食器を洗っている音などで生活感を感じていただいたり、季節に応じた装飾品を利用者の方達と作り、居心地よく生活できるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気のあった利用者同士で話をしたり、かるたを楽しんだりしている、利用者同士でくつろいでいただけるスペースを設けている。	気のあった利用者同士で話をしたり、かるたを楽しんだりしている、利用者同士でくつろいでいただけるスペースを設けている。	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具を置いたり、写真や飾りをつけて、それぞれが居心地よく生活できるように工夫している。	居室には使い慣れた家具を置いたり、写真や自分で作られた作品等を飾ったりして、それぞれが居心地よく生活できるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態を把握し、どのようにすれば良いのかを話しあって、できないことは介助し、できることからしていただいて自立した生活が送れるよう工夫している。	一人ひとりの状態を把握し、どのようにすれば良いのかを話しあって、できないことは介助し、できることからしていただいて自立した生活が送れるよう工夫している。	